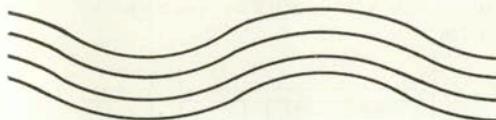


# 座談会

を迎えて

## はどう動くか



津高和一

〈画家〉

小島輝正

〈神戸大学教授〉

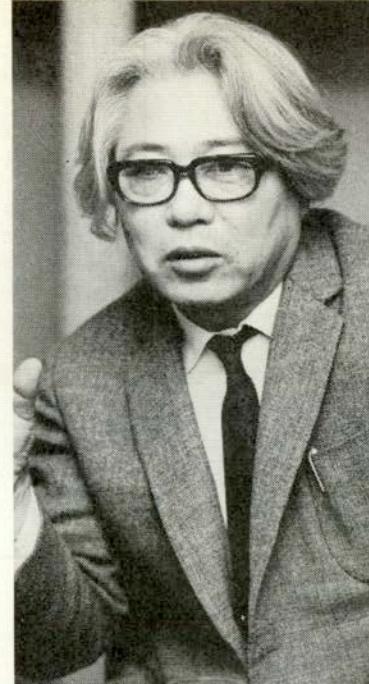
津高

絵は出て行く方が多いよう

赤尾

野口武彦もいますな。出て  
行った代表は岡部伊都子ですか。  
絵の方はどうですか。

小島 それに対して神戸の吸引力が  
ということでは田辺聖子ですか  
ね。それに犬養道子。  
強くなっている。



津高和一氏



小島輝正氏

### ★ローカリティ・タイプか

#### 全国的視野のタイプか

陳 ぼくが乱歩賞を受賞したのが昭和三十五年ですが、あのころと比べると相対的に東京に近づいた感じがしますね。これは新幹線の影響が大きいですよ。日帰りに東京へ行けるようになったということは、ある意味で東京の吸引力が強くなっている。

赤尾 戦後という言葉が問題になる今日ですが、戦後の一つの大きなエポックをなす意味で、あらゆる方面、あらゆる分野で七十年代が意識されていると思うのです。ここで、神戸の文化を捉える時、それぞれの分野での六十年代とは何であったか、どういう人を神戸は生み、また呼吸してきたかをお話していただいて、七十年代における神戸文化の位置づけをはかりたいと思っているわけです。

特集 ——

70年代

# 神戸の文化



## ■出席者■

陳 舜臣

舜臣

<作家>

赤尾 兜子

<俳人>



陳 舜臣氏



赤尾兜子氏

ですが、それほどの出入りはないですね。

小島 絵に関しては、神戸は輸出の方ではないですか。

赤尾 むしろ国外にまで輸出しますからな。

小島 神戸という一つの固定したイメージでなく、関西一円が東京に近づいてきた期間といえるでしょうね。時間的な距離感は確かになくなつてきました。

津高 絵の場合でも東京と地方という分けへだてがないですね。いわばみんなローカルですね。もちろん、マスコミや商業ベースとなると東京にウエイトがおかれます

が、それも東京が眼で他都市はその目に容易に合わしていくよ。

赤尾 それは同感ですが、ただ神戸のローカリティがまだあるとすれば、それを大事にするというか

神戸ローカリティに根を下ろす連中と、神戸に住んでいて文化活動をしているけれど、東京も含めて全国的視野で物を見ている連中との二通りのタイプが生まれてきたようにも思えるのです。

津高 そのとおりですね、現代美術展などをする時は明らかに東京も地方なんですね。ぼくの場合でも行動美術を辞めて、一個の立場で美術展をしますと、中央から見るとひかれ者の小唄だろうが、本人のぼくとしては、やはり神戸に

根を下ろしているんだと、拠点はここなんだという気持ですし、そういう人間もいるわけです。また

これは神戸でできる県立美術館の話とも関連するのですが、東京都の美術館をつくるとき、それが都

民のための美術館でなく、美術団体のための美術館だという批判があがっているのです。貸画廊だという批判ですね。これも日本の縮図だと思うのですよ。これを考えますと日本の文化人というのは、

従来の体制にあるがままに流れてきている人と、それではダメなんだと自覚しはじめた人とに分かれつつある気がします。自覚した人はいまや地方にいても自然と東京が眼を向けてくれる。その点から神戸はどうかというと、昨年の須磨離宮での野外彫刻展など神戸のスペースを生かしてよかったです。美術の場合は単独で自発的に動いているという姿勢がまだはつきりとしたかたちではでていませんね。美術の場合は単独で自

らいと見ていいのではないですか。

陳 彼が神戸的レベルでいろいろと動いているのは立派ですし、その点はオルガナイザーとして評価してよいと思うのです。

赤尾 若いところでは野口武彦も街にててきましたな。市民同友会の講演などでたりしてますよ。

小島 彼はいつまで神戸におるかちょっと怪しいところがありましてね(笑)流れ者というのは最初は誰でもそうですが(笑)

赤尾 なるほど、流れ者はどこも珍らしいわけですな(笑)

小島 文学ではバイキングが神戸を本家として頑張っているのは立派ですね。

小島 だが、神戸では詩の方が強いで

る同人雑誌名簿を見ていて感じる

が、神戸では詩の方が強いです

ね。小説は陳さんが出てから非

常に様子が変わってきたが、まだ

全体には弱いです。これから神戸に新しいものがでてくるとしたら半どん、自我、風群でしょうかね。

ここ十年の間で小説の方でもまとも

ったものが出てきているので、

あがつてあるのです。このあたりから小説がどれぐ

らいのびていいかの可能性が面

白いと思うのです。というのは大

阪の文学学校では最近い新人を

生みだしているのですよ。神戸の

この市民の学校も大阪文学学校の

神戸版といったところだから、こ

のあたりが中心になって動く時期

待してもいいのではないですか。

それと神戸在住で活躍の著るしい

のは松原新一ですね。文芸協会をつくったり、シンポジウムを開いたりで東奔西走している。

陳 彼が神戸的レベルでいろいろと動いているのは立派ですし、その点はオルガナイザーとして評価してよいと思うのです。

津高 戦前、神戸詩人という雑誌がありましたね。あの中では當時学生だった長峰まさおが「ルナ」という個人雑誌を出してたり、また小林武雄とか亜騎保などの竹中郁さんの線とは別にヤンガーゼネレイションの動きがありました。

赤尾 「クラルテ」なり「火の鳥」のころを思うと、次の世代を担うという意気込みがあったようだが、そこには神戸の風土というものが詩の場合にあったようですね。詩に何か光のようなものがあるんだ

小島 小説や散文どちらが何がそこから得られそうだ、という感じがあるのです。

赤尾 青春と神戸の開放的風土とがくつつくと、センスのある者は詩に走りますね。

★ミクロコスモスとしての神戸  
赤尾 詩と美術が神戸文化の先達であることは事実ですね。俳句、

短歌となると、これは神戸という

風土と結びつけるのがなかなか難

かしい。日本のどの地域にも三十

年以上という古い雑誌はあるので

すね。ところがむしろ逆に、短

歌、俳句の中で神戸らしい部分が少しだてきたというのは、この

十年間では前衛俳句でしょうね。

これは神戸で詩が強かったための刺激が俳句、短歌にきているので

す。

赤尾 彼が神戸的レベルでいろいろ

と動いているのは立派ですし、そ

の点はオルガナイザーとして評価

してよいと思うのです。

津高 戦前、神戸詩人という雑誌

がありましたね。あの中では當時学

生だった長峰まさおが「ルナ」と

いう個人雑誌を出してたり、ま

た小林武雄とか亜騎保などの竹中

郁さんの線とは別にヤンガーゼ

レイションの動きがありました。

赤尾 「クラルテ」なり「火の鳥」のこ

ろを思うと、次の世代を担うとい

う意気込みがあったようだが、そ

こには神戸の風土というものが詩

の場合にあったようですね。詩に

何か光のようなものがあるんだ

小説や散文どちらが何がそこ

から得られそうだ、という感じが

あるのです。

赤尾 青春と神戸の開放的風土と

がくつつくと、センスのある者は

詩に走りますね。

津高 そうですね。そういうとこ

ろが自転して伝統をつくって  
きたともいえます。それが俳句と  
もなると、赤尾さんのような前衛  
のするもんだ、というムードがど  
ことなくある（笑）

小島 バイキングがね、作品は何  
でもよろしい、ただし俳句と短歌  
はいかんという（笑）これも神戸  
のモダニズムのあらわれですね。

赤尾 「文学壇壇」でも俳句、短  
歌の同人雑誌は載せていない。こ  
こらあたりにも根強い偏見が残っ  
ているようですね（笑）まだそう  
いうものが神戸にはあるのですね

小島 そういう偏見があるからこそ  
そ、神戸に前衛俳句が出てきたの  
でしよう（笑）

赤尾 稲垣足穂のような奇妙な異  
端者的精神は神戸にあっても不思  
議ではないですね。これも神戸の  
風土の一部ではないでしょうか。

津高 でも当時の稲垣足穂にして  
も、神戸にいるというのは案外知  
られてないし、神戸でそう仕事も  
していないけれど、こういう異端  
者的精神を誘発するミクロコスモ  
スとして神戸があるのかもしれない  
いですな。

赤尾 稲垣足穂のようないい處

端者的精神は神戸にあっても不思  
議ではないですね。これも神戸の  
風土の一部ではないでしょうか。

津高 でも当時の稲垣足穂にして  
も、神戸にいるというのは案外知  
られてないし、神戸でそう仕事も  
していないけれど、こういう異端  
者的精神を誘発するミクロコスモ  
スとして神戸があるのかもしれない  
いですな。

## ★文化全体のバランスを考えての 文化設備を

赤尾 文化に関しては、あまり施  
設とか設備は直接的には関係はな  
いのですが、とともにかくにも神戸

には器がない。そういう点を文化  
行政という面でみると、この十年  
はいかがでしょうか。

陳 國際会館以後といふと県民会  
館ぐらいですね。

小島 その県民会館も文化面での  
活用となるとまだまだ弱いですよ  
もっぱら神戸大学の教授会ばかり

ですか（笑）

赤尾 教育文化に貢献しているの  
ですね（笑）

津高 現在建設中の王子公園  
の南にできる県立美術館ですが、  
どうもこの点でのPRが絶対的に

不足していますね。こういう県の  
文化行政が、何かこそそと隠れ  
てやっている感じがして、何とな  
くそれだけ庶民感覚とのズレが出

そうです。  
小島 役人のすることはどうもそ  
ういう傾向があるので、それ  
でも神戸は面白いところです。先  
日、文化庁が各都市の文化行政の  
視察することになり、その一番  
乗りが神戸だったので。われわ  
れが文句をいう側なのですが、神  
戸では中央から役人が来ても一応  
スネルとこころをこちらが持つてい  
る。だから田舎に来ているようす  
いばらこともできませんね。

赤尾 稲垣足穂は神戸とくらべると  
センスはあまりよくない。ところ  
が図書館活動および図書館の数は  
すごいのです。各区に一つあるの  
ですね。市民と密接している。ま  
たある図書館で読みたい本がなか  
つたら、別の図書館から翌日に車  
で運んでくるのです。これは名  
古屋が非常にいばつているので  
す。名古屋は非常に地元意識の強  
い街だから、いろいろなみかたも

はあまり世話をはしていただきた  
くない（笑）ただ演劇など明らか  
に劇場が問題ですかね。

津高 美術館をつくろう、といふ  
のでオリエンタルホテルで会合を  
持ったのですが、どうも県立美術  
館が決まって美術関係者が黙つて  
しまって、演劇人単独ではどうす  
る力も持っていないのです。

赤尾 そうですね。美術館ができ  
ることは賛成ですけれど、それを

建設するだけ一生懸命活動して、  
できてしまえば終りというのでな  
く文化全体のバランスにおいてあ  
る施設ができるというかたちにな  
つていいようですね。

小島 美術は神戸では強いですか  
ら美術館を先にして、次は図書館  
をたててもらおう。集会室もあり、  
また審議委員会でも設けて必要な  
本は購読できるというシステムの  
ある図書館がほしいものです。

## ★神戸市民の自由精神の巧罪

赤尾 名古屋は神戸とくらべると  
センスはあまりよくない。ところ  
が図書館活動および図書館の数は  
すごいのです。各区に一つあるの  
ですね。市民と密接している。ま  
たある図書館で読みたい本がなか  
つたら、別の図書館から翌日に車  
で運んでくるのです。これは名  
古屋が非常にいばつているので  
す。名古屋は非常に地元意識の強  
い街だから、いろいろなみかたも

あるでしょうが、神戸に関していると、センスがよいという地元意識はわりきっている。センスを自慢するのではなく、神戸も何か誇るべきものを持たなければと思いましたよ。

### 津高 県立図書館のないのは兵庫

県だけですよね。

小島 名古屋は非常に金儲けのうまいところですが、地元に還元する気があるのですね。名古屋大学の敷地などすごいものですよ。逆からいえば、神戸はお上の世話にならない市民気質があるのでしょうが。

赤尾 市民の自由精神ですな。

陳 その点はあまり物欲しくないです。利用できる時は利用できる施設がある方がいいのは当然ですが。それでも神戸の図書館は親切ですよ。どんなことでも相談にこたえてくれる。

赤尾 そのことは岡部伊都子も大養道子もほめていましたわ。神戸は自由的市民精神を持っていて、お上や権力者に頭を下げない、といふ点で好きなのです。しかし役人は黙っていては何もしない。少しは刺激を与えなければいけないと思つているのです（笑）。

神戸市の文化行政はどうでしょうか。

陳 市民会館をつくる話がありま

難航しているらしいですが。それを市街地の小学校がだんだん人数が減ってきてるので、それを統合していった学校の敷地を市民会館にしたらという案がありますが、これにはPTAと同窓会が反対するらしい（笑）。

津高 美術館設置で陳情を行った時のことですが、そのあいた小学校ができれば、市民会館をつくるように誰かを動かしなさい、すぐできますよ。というんだが、さすが市の方も自分でつくるとはいわなかつたな（笑）。

赤尾 西宮や尼崎では公民館がたくさんあって、いろいろと利用しやすいのですね。「渦」の大会をする時でも尼崎の文化会館に話を持つて行く。神戸ではできない。金のない文化活動をしようと思うと神戸はかなりしんどいですな。

陈 ところが当事者は、一つ大きいものができますと、小さい方にまで手を出しません（笑）。

津高 神戸でできることだと思うのですが、サンパウロのビエンナーレの関係で八ヶ月いたのですけれど一新聞社の社長が記者クラブと称するものを設けてバーを開業して外国人からの人たちがいろいろと交流して飲んでるわけです。控えの間があつて、そこに小品を展示することもできるのですね。記者クラブと称しているけれど、それは文学をやる人とか絵をかく人たちの集まるところで、実際記者は少ないのです。これは神戸でもできますよ。ブランジルらしいところだなあと感心しました。

津高 それは美術館設置の運動をしている時にも感じていたのですね。ただ敷地がないというので

から大きなものを建てなくとも、相楽園の中にはアート馬小舎のようなところを開放したり、どこかのフロアをサロンとして提供するという具合に安直に手をうつていたみたいのです。西宮の場合も市民会館というモニュメント的なものを建てたが、あの利用面ではいろいろと機械的に問題があるようです。神戸は洗練された街だから一つのデカイものを作り、他方では安直な手軽るに利用できるものを作り、という二面作戦でいいのですよ。

赤尾 神戸は洗練された街だから一つのデカイものを作り、他方では安直な手軽るに利用できるものを作り、という二面作戦でいいのですよ。

津高 ところが当事者は、一つ大きいものができますと、小さい方にまで手を出しません（笑）。

神戸でできることだと思うのですが、サンパウロのビエンナーレの関係で八ヶ月いたのですけれど一新聞社の社長が記者クラブと称するものを設けてバーを開業して外国人からの人たちがいろいろと交流して飲んでるわけです。控えの間があつて、そこに小品を展示することもできるのですね。記者クラブと称しているけれど、それは文学をやる人とか絵をかく人たちの集まるところで、実際記者は少ないのです。これは神戸でもできますよ。ブランジルらしいところだなあと感心しました。

陳 竹中郁さんが、どこかへ行つ

# MORE MORE



キャラバンのテントを感じる室内、神秘的なムード。魔法のジュウタンに座して飲みかわそう！

ビール小300円 ウイスキー400円  
フイズ等400円 他軽食も有り  
チャージ、サービス料いっさい無し



神戸市生田区中山手通1-117

TEL 33・4728

PIZZA SALAD & HOTDOG

あなたらしいパーティーを！

2F 小さなパーティーを  
あなた自身で演出できるスペースです



RESTAURANT

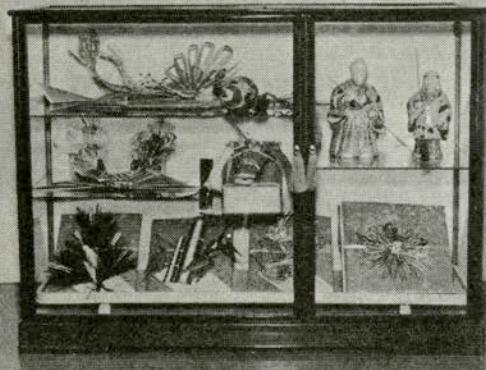
**ASHIYA GARDEN**

TEL (0797) 31—1025

新春は元旦から営業いたします

幸せな二人  
えにしを結ぶ 結納儀式用品

壽

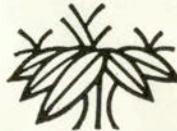


合資会社

遠藤福寿堂

東店 - 神戸市生田区トア・ロード高架上る TEL(39)代1871  
西店 - 神戸市長田区市電菅原東入る TEL(55)代2251  
メトロ神戸店 - 神戸高速地下街 TEL(34)1035

ちんぎら庵



きものと細貨  
ちんぎら庵

神戸

西 店 / 三宮センター街・電話 33-8836 (代)

東 店 / 三宮センター街・電話 33-0629

三宮店 / さんちかタウン・電話 39-4303

東京

銀座店 / 銀座並木通・電話 573-5298 (代)

渋谷店 / 東急本店・電話 462-3409 (直)  
(5階和装名家街)

日本橋店 / 東急日本橋店・電話 211-0511 (代)  
(4階和装名家街) (内線 294)

たら皆に会えるか、または消息のわかるところが欲しいので、自分は酒は飲まないから喫茶店でもつるかな、といつておられましたよ(笑)

津高 日本人はそうなるとすぐグループにかたよるが、かたよってもいいと思うんだ。レストランで口もきかない二つのグループが隣りあわせになつても呉越同舟でかまへんのです。それもまた面白いですわ。

小島 ただ神戸の場合は、規模からいっても中途半端な街ですね。

赤尾 なんとなくまとまりにくくて。小島 そうですね。はっきりと縦と横の関係がわかるわけでもない津高 そこに地方のユニークさがでときそうな気がしますね。

### ★神戸の批評家精神

赤尾 関西とか東京とかを基準でみれば、神戸は文化施設の面においてもわかるようによくそれが文化的な動きがおこなわれていないと思うのですよ。ところが神戸というイメージがあつて、有名な作家でも神戸に行くと、神戸では文化人は大きな顔をして歩ける街やな

いないと普通なら認めませんよ。これは職業人については当然いえることですわ。神戸では、街のムードというか流行、オシャレにお

けるセンスの良さと文化とのさかわかるところが欲しいので、自分

い目がはつきりしないのです。文化人というのは創造しなければならない。ものを創らずに、流行なりオシャレなりのセンスの良さで

文化人と思いつこんでいる。またそ

う見ている人ははつきりと除外する必要があります。別の意味か

ら神戸を弁護するためには、文化人、センスの良さを売り物にする者と創造する者とをはつきり区別して知つていても案外あれ

これと指摘したりしない開放性があるのです。これは文化人と称する者がはつきりと知らないとあ

かん。知らないでやつての連中の方が結局はアホなんやと思うね。

その意味では市民の方を信用する

のです。役人がきてもそとはなびかないというか、よっぽど立派な連中がきてこそうは驚かんのが神戸です。陳情して物をいたきたいとはあまりいわない。お上からみるとまったく具合の悪い市民なんですよ(笑)それは文化とまでいえなくとも、何らかの芽が育つ可能性がある。創造的活動に従事していない文化人は、この現実をもつと自覚すべきです。市民の方がかなりのレベルにまできている。

赤尾 小説も書いてないし詩も書いていないでも大学の先生となると、ハハアとかしこまる(笑)ところが神戸になると、虚業にたずさわっている人間を、こいつはほんもので、こいつはにせものやと見分けるところがある。批評眼があるのですね。

赤尾 開港以来、いろいろと見てきましたからな。雑種の街の強いところです。

小島 神戸人は外人も区別しますからね。

陳 神戸市民は批評家という感じ

がするね。おそらく開港以来、外國から入ってくるものを暗黙の内に取り入れるべきものと、そうでないものを選択している。自ずから批評家精神ができるがっていますね。

津高 そういう選択をおこすだけの何か仕掛けができるのでしょうな。

赤尾 仕掛けね。それはええ言葉や(笑)

★京阪神のワキ役神戸は人工的に頑張らんとアカン

小島 大阪だと商売をしている人間と、ケツタイな虚業にたずさわっている人間とはまったく別だ

いう意識がありますね。京都へ行くと虚業の方が強いのですわ。

赤尾 ええ、虚業が案外のさばるのです(笑)

小島 小説も書いてないし詩も書いていないでも大学の先生となると、ハハアとかしこまる(笑)ところが神戸になると、虚業にたずさわっている人間を、こいつはほんもので、こいつはにせものやと見分けるところがある。批評眼があるのですね。

赤尾 開港以来、いろいろと見てきましたからな。雑種の街の強いところです。

小島 神戸人は外人も区別しますからね。

陳 ずいぶんとインチキ外国人にだまされてきたからでしょう(笑)津高 東京の銀座を歩いても神戸の人は驚かないね。東京下りをあ

りがたがらない。

赤尾 大阪はうとナメてかかって  
いるしね（笑）

小島 ヒッピーなどでも神戸では  
相手してくれない。新宿のよう

な田舎者の多いところでは人が集  
まるだろけれど、神戸じゃセイ

がない（笑）

津高 無視するというのが無言の  
批判精神でしょうか。これは神戸  
人の動物本能みたいなものですか  
な。

小島 習性でしようね（笑）

赤尾 山陽新幹線の問題でも、神  
戸にひかりを停めるかどうかで議  
論がある。そうだが、まだ神戸市民  
の間で切实な問題になつていませ  
んわな。

陳 あとは明石に停まるんですわ  
明石やつたら国鉄で行つたら乗れ  
るんです（笑）

赤尾 その精神や（笑）これが神  
戸人の習性なんですわ（笑）

津高 そら、明石まで快速にでも  
乗れば別にどういうこともないで  
すな（笑）

陳 東京へ行くときは新大阪、西  
へ行くときは明石まで行けばいい  
のですよ（笑）

赤尾 神戸はそんなところなので  
す。しかしうつかりしているとや  
られるかもしれないね。

陳 明石も神戸の一部だと思えば  
いい。

赤尾 これは経済界には影響が大  
きいですよ。全国で超特急のとま  
る駅となると、もし神戸で停まら  
なかつたら神戸は経済的な意味で  
本当の田舎になつてしまふ。そう  
いう直接に関係するところからも  
まだこの問題に対する声は弱いで  
すね。

陳 今の段階では港のある都市に  
はひかりは停まらないようです。  
赤尾 東京にひついた横浜と京  
阪神三都の神戸とはちがうと思う  
のです。京都、大阪に停まつて神  
戸に停まらなければ、神戸はダウ  
ンする恐れがある。

津高 逆説的にいえば神戸の人間  
は文化人かもわからん。国鉄のい  
う機能性からいって、大阪を出て  
速度の出たところで停めるより、  
明石ぐらいで停める方が理にかな  
つているのかもしれない（笑）

赤尾 これじゃ、とうていひかり  
は停まらんわ（笑）

陳 明石の合併運動をするとい  
うのです。明石を出ると播州平野  
があつて視界が広がりますから。

赤尾 そうでしょうけれど、神戸  
駅からひかりに乗つて東京へ行つ  
たら気持よろしいぜ（笑）

小島 それは銀河の感覚や（笑）  
神戸を出る唯一の夜行列車があり  
ましたな。

赤尾 大阪は歴史的に中心として  
栄ってきたところで、ほつといて

も水が流れよる。神戸はワキです  
から人工的に頑張らないとあか  
ん。自然とそこが中心になるとい  
うところはどうも面白くない。水  
の流れる道をつくらないとあか  
んのです。

津高 その点では明石の方が播州  
平野を控えて可能性があるのでは  
ないですか。

赤尾 播州はぼくの故郷ですが、  
いまの調子では駄目ですわ（笑）

これは神戸の人間が考えるべきこ  
とですが、播州は近代化せずに今  
のまま残しておかないといけな  
い。神戸に将来大きな人間が出る  
としたら、播州の野に行つて深く  
呼吸をして自然を見つめるところ  
として残しておくべきですよ。

★ 野暮とモダンの魅力

赤尾 次に七十年代における文化  
界で期待される傾向ですが、文学  
ではいかがでしょうか。

陳 六十年代では田辺聖子ですが  
神戸を書いたという点では、東京  
にいる野坂昭如の一連の空襲小説  
が一番だと思います。抜群の記憶  
力ですね。空襲のころの神戸を書  
いたのは今まであまりないです  
よ。

小島 小説が神戸ではもうちょ  
と盛んにならないとあかんと思う  
が文化の先端にはなやかに出なけ  
ない。

れば神戸のイメージアップにつながりにくいですね。小説家は保護するとか目になるから、せめて関心だけはつねに持つべきでしょう。

陳 そういう雰囲気の中からわれわれの知らないところで新人がバットがあらわれる気がしますね。

小島 神戸の場合は地道にやってきた人よりも案外バッく世に出る人が多いですね。その可能性は大いにあります。兵庫的な意味では非常に難解な伝統と、神戸のいわゆるモダニズムが混ざりあって、野暮でありスマートであるようなものが突然的に出てくる可能性がありますね。それは「風群」にいる下大路由佳などにも、そのモダニズムとやほたさがある。ああいう傾向が時々でてきます。

ただ神戸は割に飽きっぽいから長続きするかとなるとわからない。

津高 横尾忠則のセンスが西脇の野暮と神戸のセンスで洗礼を受けたみたいなもんですね（笑）猥雑に行つた。

小島 「暮しの手帖」の花森安治についても同じことがいえますね。大阪の場合には、同じ猥雑でも無理なポーズの猥雑さがある。それが花森安治には野暮とスマートさを感じられる。それが神戸人の妙味なのですね。東京だけのセンスで

もないし大阪のセンスでもない。

赤尾 それはよくわかるのです。

ぼく自身が猥雑であってモダニストであるといわれているのですわざと猥雑にしますね。

小島 そのとおりですね（笑）大阪では、本人がそれほど猥雑でもないのに、オレは河内やで、とワザと猥雑にします。またそういうふうな気がすまんのですね。一種の露悪趣味がある。

★万博の地鳴り末だ神戸に響かず

赤尾 六十年代における神戸の文化も、新人輩出という点では、そぞう著しいものでもなかつたといえます。それは、今いわれたように、神戸の土壤はジワジワと新人を醸成していく。半端でも東京に出て、そして東京で、神戸生まれあるいは神戸育ちの氣質を尾骶骨にぶらさげている。これが六十年代の神戸文化の特徴だと思ふんで

すよ。ところが七十年代になると

ちょっとちがつてくね。

津高 七十年代というと万国博が

あるのですが、金儲けと民族の祭典的なイメージが神戸や大阪と直接つながらないのではないか。ど

うも一種の仕掛屋みたいなものが

いて、一般市民にせよ美術界にせよ表面を通りすぎて行きそうな感じがする。直接万国博にたずさわる人は、各パビリオンが全国からピックアップしたかたちで、本來ならそうでなく、もっと下からの

盛り上がりで祭典がなされるべきだが、どうも地鳴りが感じられない。跡地の問題でも現在背負っている負債で頭がいっぱいです。政府にい

かに高く買上げてもらうかが現実に考えていることなんですね。大阪が万国博を契機にしてグッと発展するビジョンがないのですな祭りにダンジリが音をたててとおつて、跡に紙くずばかりではいけないのですよ。

小島 いまや情報社会で、どこに何があるかがわかっていることが多い。第一回のロンドンでおこなわれた万国博とはちがうのですね

津高 これは神戸だけの問題ではなく、京阪神三都の京都にもいえることだと思うのですよ。なかでも神戸人は、とくに笛吹けど踊らんのですな（笑）

赤尾 どうも神戸人は、さきほどこの新幹線と同じく万国博にも冷淡ですね（笑）

### ★七〇年代感覚主義

実感主義の時代に何がのこるか

赤尾 皆さんが言われる通り、七

十年代のいろいろな問題は、案外神戸を素通りして行きそうな感じがする。神戸は、ダンジリの喧子を聞いて尻騒になるのでなく、持つて生まれた尻軽さがある（笑）しかし、文化的の傾向として七十年代は面白いものがでてくる可能性

があるようですね。

陳 和田悟郎によると人類は、あと十年も生きないということだが、そうなると七十年代は闇だね。

赤尾 あれは命がないという意味

ではないのだけれど、ああいう理学者は悲観的になるのだな。

小島 小説が盛んになるとさきほどいいましたが、実際は今後おろえて行くと思いますね。

赤尾 活字がですか。

小島 活字も含めて文学全体の問題でしううが。もっと感覚的な詩などの分野に可能性がありそうだ。

陳 作品の傾向がシアリアスなものと、お茶の間に入つてこれないエロのものとに大別されますしううね。

小島 そして深刻なものは詩以外では表わさなくなる。一つ一つの手順を追つて論理を積み重ねることよりも、パツと活字が視覚的に入つてくるようなものが出てくる。

赤尾 非常に短かい電波みたいな言葉ですか。そうなると逆説的に長い小説が求められるようになるし、また刺激となつて良いものが生み出される楽しみがある。

陳 そうですね。詩情が発露する方向が問題でしょう。余暇が多くなると、その時間を創作に振りむけて行つた時の樂觀的なみかたも

ある。

赤尾 文学のエッセンスが詩だとしたら、その詩を人間が見返らなくなれば人類は終りですか。

小島 言語の滅亡ですね。

赤尾 文学に対する楽観説、悲観説のどちらに転んでも、かろうじて詩は残るのではないかと思って

いるのです。これも樂観論でしょうかね（笑）

小島 残念ながら絵画、音楽は残る（笑）

津高 非常に親しいアメリカの詩人で京都に住みついて九年にもなっているのですが、アメリカに帰ると、むこうの詩人はストリッパーばかりでとてもおれん、といつてすぐ京都に帰つてくるのですね。

ニューヨークでは詩人が活字でなく、裸になつて観賞に訴えるのです。

非常にメカニックな環境の中ではあるならざるを得ないのでしょうが、芭蕉を研究している者にとってはとても住みづらい（笑）

日本も東京をはじめ、だんだんそういう傾向がでてくる。本当は、

そのニューヨークの汚染の中でもちどまつてそれに耐え、そして超えることができないものかとも思いますね。でないと、いずれわれわれも避難地として神戸を選ぶようになるだろうし、人によっては

神戸からも逃げて出るかもしけない。

い。

小島 学生たちと話をしていて感じるのは、もう概念などはまったく信用しない、だから言葉も信用しない。ただ感覚あるのみです。音楽にしても絵にしても、これは感覚だから信用できるというのです。

ところが文学は信用できない、感覚主義というか実感主義なのですね。戦後の実感主義が整理されていなかたちで出てきたようでは

最後にこちらが、地球が動いていることは実感できるかと問うと、むこうは返事ができない。しかしそこにいたるまでがすべて実感で處理するのですね。

陳 はじめに言葉ありき、だからこの世に言葉がなくなるともう終りですわ。人類は生きるかもしれないけど、それは別な奴や（笑）

赤尾 そら、アニマルが生きるわけやね（笑）。

### △文責・編集部

☆神戸っ子愛読者映画優待券  
このコーナーをご持参の方は

上映の観覧料が優待割引されます  
一般500→400円  
学生400→300円  
うちなるだらうし、人によっては  
小人250→200円になります

あなたが  
みよへや

呉竹條  
みよへや

大阪店 大  
神戸店 前  
電話 神戸 33(32) 二二四四八八番(代)  
姫路店 大阪 36(1) 九五八三番(代)  
電話 姫路 23 一三二二四四番(代)  
百貨店 姫路 一三二二四四番(代)  
前

あなたの美しいヘヤースタイルと  
花嫁をつくる 美容室 エリザベス



エリザベス

畠尾 芙久子

本店美容室 生田神社前新河南ビル2階 <33>8894  
 婚礼衣裳部 生田神社前(元本店美容室) <33>3258  
 三宮店 三宮神社山側三上ビル2階 <33>4917  
 芦屋支店 芦屋市阪神芦屋駅前 <2>4067  
 西宮店 西宮市阪急西宮マンション北館1階 <67>1294

美容担当(東京初代速藤波津子直流)専属結婚式場  
 生田神社・オリエンタルホテル・阪急六甲山ホテル・住吉  
 学園・蘇州園他



■元町に天使が降りて來た!

元町にも一九六九年のフィナーレ、クリスマスが近づきました。元町1、2丁目のプロムナードを飾る楽しい裝飾は、"元町に天使が降りて來た"。可愛いエンゼル達の合唱が、鐘の音に

元町  
タウンジャーナル  
★★★  
MONTHLY  
**MOTOMACHI**  
Road

美しいハーモニイを奏でます。

紅く燃えるキャンドルと花々の行燈が、道行く人々に"メリーカリスマス"を呼びかけて、ショッピングの楽しさを充分に味わさせてくれるので

す。

エンゼル達は、鐘の音とともに飛んたり、降りたり、子供達は鐘から長く降ろされた綱をひっぱって、カラカラと大騒ぎ。

お買物客も参加できる楽しい、エンゼル達の、スノーカリスマスです。飾りつけは十一月下旬から初まり、クリスマスマードはいっぽい。

■元町一丁目山側仮店舗  
12月新装オープン!!

市街地改造の一環として、長い間仮店舗住まいをしていた元町商店街山側店舗が12月新装オープンする。



★元町1・2  
ミニトピックス

★クリスマスが近づいたので、ある日おもちゃ屋さんをのぞいてみました。(カメヤ・バンブー店)にとつても可愛いミシンがあります。お人形の洋服ぐらいなら簡単に縫えてしまいます。

一、六一〇円  
坊やにはメカニカルトイが喜ばれそうです。

★(日本楽器・神戸店)では12月31日までヤマハステレオ、ナチュラルサウンドフェアを開催。期間中ヤマハステレオお買上げの方に、特製バラス像(ロダン原作マープル仕上)をもれなくプレゼントしています。

★ベビー、子供服専門店(ファミリア)にオリジナルオーバーコートが出揃いました。デザインはいずれも活動的なもので、可愛いものばかりです。その他  
リズム書ふらし  
おむつ用安全ピン  
COOLAガム型おしゃぶり  
などがあります。  
★貴金属、装飾の△七宝頭飾店▼にいろんなコンパクトが並んでいます。

象牙のコンパクト 六、〇〇〇円  
一八〇円  
一三〇円  
一五〇円



# すてきなお店

\* \* \* \* \*



## ウエダ

元町2丁目  
③0686

★ 小じんまりとした店先だが、品格あるセンスを感じさせる毛皮の専門店。

一年四季を通じて、コート、ショール、ボア、カラーマフなどのあらゆる毛皮おしゃれ製品のみをおいている。

世界各国の原皮を輸入し、別読み、修理等毛皮のことなら、どんなことでも気軽に相談にのって下さい。

とのこと。



## カメヤ・バンブー店

元町1丁目  
⑨0768

★ 色とりどりのおもちゃとクリームホワイトの壁とが調和した、甘く明るいお店

一年四季を通じて、コート、ショール、ボア、カラーマフなどのあらゆる毛皮おしゃれ製品のみをおいている。

世界各国の原皮を輸入し、別読み、修理等毛皮のことなら、どんなことでも気軽に相談にのって下さい。

とのこと。



## 七宝頭飾店

元町2丁目  
⑨1558

★ 「七宝は七宝焼の意にあります、7人の子の意なり」名づけて「七宝頭飾店」。

元町商店街の入口に近い本店は大阪心斎橋にあり、貴金属、宝石、喫煙具、装身具、銀器などバラエティ

として、輸入玩具をはじめ各種玩具が安く豊富に揃っています。外人買物客が気

と/or そのだらう。

\* ピングは  
ショッピングは  
楽しいモトマチへ

96頁 - 98頁は  
元町1、2丁目の  
企画ページです

★元町うまい店  
「矢倉すし」

元町通二丁目六五  
(電)⑨〇〇九八)

生粋の大坂船の老舗で、創業以来約一〇〇年、四代にわたって、大坂船についての数多い秘伝を伝している。

元町本通りに面した堂々たる風格の店構えは、その歴史を感じさせるが、今のご主人が老舗の近代化に努力を重ねてきたせいか、意外に気軽に入れるお店。

ゆったりしたベースの中、落ち着いて食事ができる。

和紙覆りのメニューには、墨筆で、手頃なもののからさまざまな種類の鮓料理がしたためられている。自慢料理は松前鮓、特にバッテラ(三五〇円)。これは二代目の創業によるもの。その他冬のおし船(三百円)は、三代目の歴史に残る創作だそ

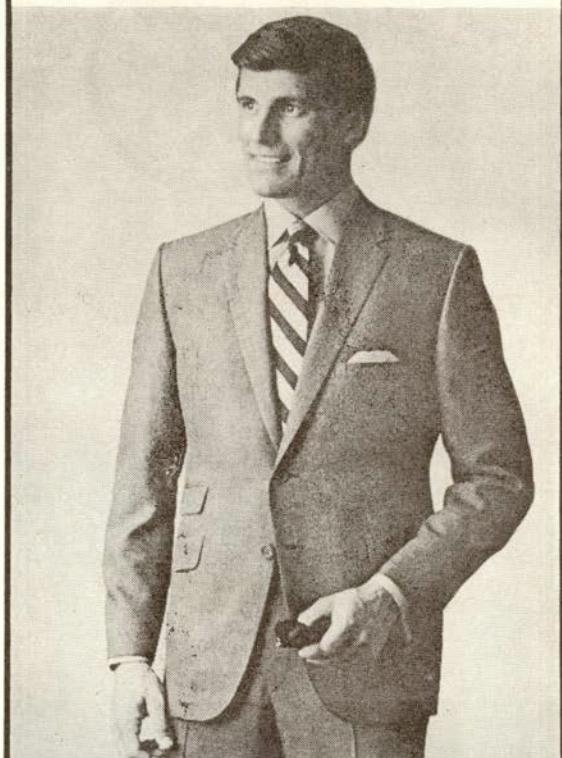
うだ。  
自身をそのまま使った古式雀子し、穴子棒し、さばしは九〇円とちょっと値がはるが、お手頃な値段でおすすめしたい。茶きん寿司(三〇〇円)。うす棒(きん棒)に包まれたかわいいおしそが二包包み。ワインド(よりもずっと大きくて、ほんとうに満足してしまう)。それにお吸物か赤だし(二〇〇円)を発売してはいかが。

神戸にそだって 70年

**風月堂**

元町 3 丁目 TEL ⑨2412~5  
さんちかスイーツタウン TEL ⑨3455

本格派のあなたに



O-SHIBATA  
柴田音吉洋服店



神戸・元町4 丁目南 神戸 34-0693  
大阪・高麗橋 2 丁目 大阪 231-2106



おいしさが  
口いっぱいに  
ひろがる……  
本場の味



- 三宮センター街柳筋店  
TEL・32-3446・33-0572
- 新開地店  
TEL. 56-1191
- 平野店(平野市場内)  
TEL. 36-0821

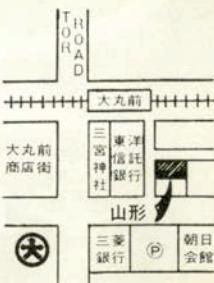
●三宮センター街<サンプラザ地下街>に  
来年4月開店予定!

家庭的な雰囲気を  
と心がけております。  
ご家族づれでどうぞ



焼鳥. 始めし  
山形

三宮神社東路に入る  
TEL 33-5979 32-2417  
定休日 第1 第2 第3日曜



● ● ○ ○ ○ ..... うまいもんシーズンはスカイサントリーで ..... ○ ○ ○ ● ●

★ 忘年会、新年会のご予約はお早目に!!  
予約受付中



(一品料理、日本酒も準備いたしております)

飲みほうだい ( サントリー純生ビール  
クラウン・コーラ ) + 食べほうだい! <北欧ヴァイキング料理> 1,400円(飲食税140円別)

| 101 |



なごやかな  
ムード  
すばらしい  
眺望!

三宮交通センタービル9階 TEL 093-3705~6

スカイサントリー

神戸のさんちかタウンは、現在東京、大阪など大都市の都心にできている大規模な地下商店街のモデルということになっている。そして神戸の住民もいくらかそれを誇りにしているふしがある。私もそうである。

大阪の地下街ではいま問題がでているが、それはどこで、換気装置の大拡充をやらねばならないわけだが、大阪の地下街がくさいのは、人間が多いだけでなく、やたらにクシカツ屋みたいな食堂が一般商店の間に点在しているためだと思う。

それにくらべると、ますさんちかタウンはニオイがない。食堂の方もまとめられていて、ニオイが商店の方へこない仕掛けになっている。食堂というものが相当強烈なニオイを発することは、そういう角の道路ぞいにある換気孔からきついニオイが出ているのもわかる。食堂だけではない。さんちかにはいって、だれもが気づくのは、レディースタウンとか、メンズタウンとか、フアンシータウンとか、整然と業種別に編成されていることだろう。こういうアイデアは、さんちかタウンの元締めである神戸地下街株式会社の業務部長、森本泰好さんによるものなのだ。

この計画を耳にしたとき「やっぱり森本さんだ」と友人の間で語り合ったことがある。というのは、森本さんはかつて今はなき神港新聞の記者として私の同僚であったのだが、整理部畠出身の編集局長をつとめている。つまり「整理部らしい」ということだ。

新聞記者というと、テレビで出てきた事件記者のイメージがまず浮かぶが、外へ出てエラソウにしている、記者を書く記者も、中でいわゆる紙面製作に当たっている

整理部記者にかかると、書いた記事がどんな目にあうかわからない。なん段の見出しをどうつけて、紙面のどこに置こうか、と考えて決めるのが整理部記者なのである。活字の大きさを単位とするモノサシなどをぎり、こわい顔してデスクにすわっている整理部員は外勤記者にとって、なんとなくおつかない存在だ。

だから、さんちかタウンの整然たるレイアウトを見たとき、厳格で鳴る森本さんの新聞整理を思い出したのである。

もう一つある。森本さんも私も、同じ大阪外語の卒業（お前は同窓ばかりここへ持ってくるといわないで下さい。外語出身が神戸に多いからいけないので）専攻はドイツ語である。ナチス花やかなりし頃にドイツ語を志望したんだから、やはり整然たる統一への指向性があるのだろう、というとやや問題があるが、どういうものか専攻の科によって、みんなくらか学生の性格も異っていた。ドイツ語科の他の友人も、私とちがって大むねマジメで几帳面だった。その几帳面さが、あのさんちかに出たのではないかと思う。

一方、私は雑然派というか、闇市派というか。三宮のあの一角にあったジャンジャン市場を愛し、それがこわされるとき一掬の涙を注いだほどだから、あまりにもキチッとしたさんちかに、いく分心配したものである。

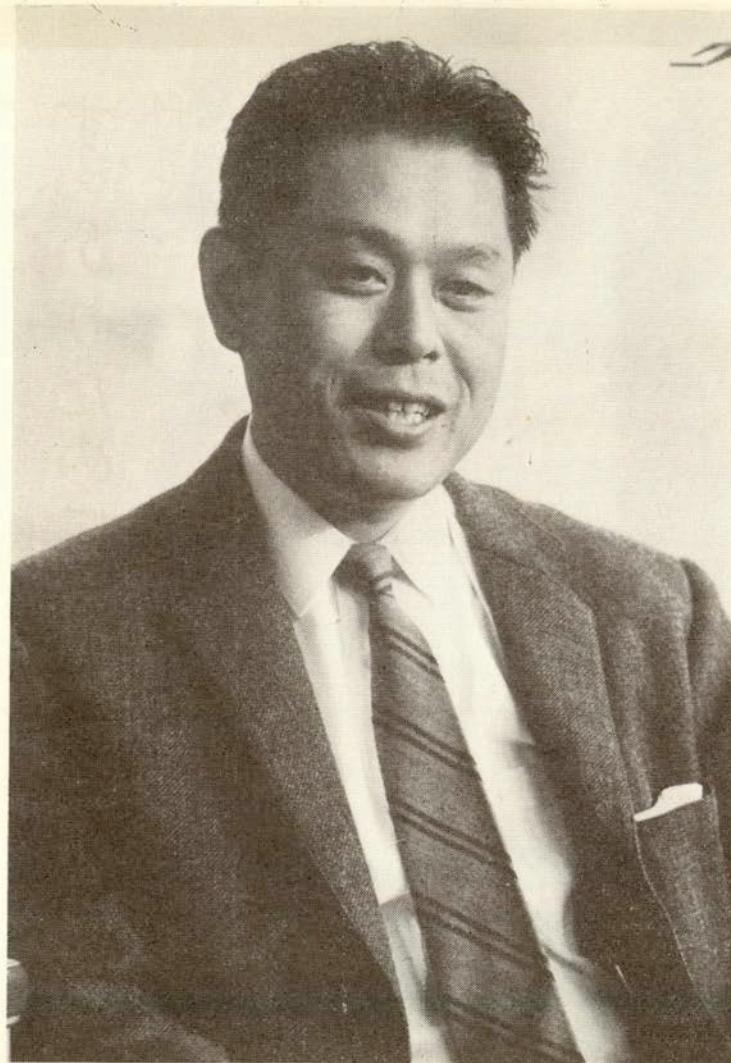
だがこれは、杞憂だったようだ。店のレイアウトが整然としていても、ともかくあらゆる年齢層、階層の人々が、雑然とこの地下道に流れ込んで、一種の熱気をつくりはじめたからだ。そのうえフォーケソングのグループが一時たむろするくらいのハブニングまであった。また、さんちかが拡張されたとき、森本さんは、私た

ちの考えたことに無言で応じたようだ。拡張部分のファミリータウン、お好みコーナー、さんちかひろばには、今までの「ちょっとおすまし」ムードとはちがって、雑然とした、親しみのもてるムードが生まれたからだ。さんちかひろばをときどきのぞくが、この催し物の中で、予想以上に受けたのは「占い」のオンパレードだったという。スマートなさんちかで、ちょっと考えられないことだが、こんなことを思いつくのも森本さんだ。

森本さんはさきほど神戸の専門店主の人たちとともにアメリカの新しい小売り形態であるショッピング・センターを中心に視察旅行に出かけた。その見聞を話してもらったが、いまや、デパート、スーパー、専門店のすべ

てを含む大ショッピング・センターの開発担当者は、デパートや、スーパー経営者でなく、専門の職種として定着しつつあるということだった。

新聞記者というものは想像するほどツブシのきかないものだが、森本さんは中年の入り口で、全く新しいショッピング・センターのプランナーに転身し、そして見事なさんちかタウンを作った。近く完成する神戸港第四突堤にボート・ターミナルという日本でもはじめての港のショッピング・センターができるが、このプランもいま森本さんら、神戸地下街の人が練っている最中だ。さてどんなものができるか、大いに期待しているところである。



森本泰好さん